

1768. 確率法則ノ分解問題, IX

北川 敏 月 (阪大)

§10. I[F] = 於ケル分解問題

L'arithmétique des produits de lois de Poisson / 重要+定理トシテ

定理10. (Raikoff) Poisson / 分布 / 特性函数 $e^{e^{it}-1}$ ヲバ, ニツノ特性函数 $f_1(t), f_2(t)$ ノ積=分解出来トスル。然レ時ニハ, $f_1(t), f_2(t)$ ハ必ず次ノ形ニナル:

$$(1) \begin{cases} f_1(t) = e^{c_1(e^{it}-1) + imt} \\ f_2(t) = e^{c_2(e^{it}-1) - imt} \end{cases} \quad (-\infty < t < \infty)$$

而シテ茲ニ、実数 c_1, c_2, m = 關シテハ次ノ關係が充サレテ居レコトニナル:

$$(2) \quad c_1 + c_2 = 1, \quad c_1, c_2 \geq 0.$$

茲ヲモコノ定理ヲモ亦, 或ル特殊領域ニ於ケル分解問題トシテ附キテ見ヨウ。

以下ニ於テハ暫ラテ、 $f(t) \neq 0 \quad (-\infty < t < \infty)$ ナル如キ特性函数 $f(t)$ ノミヲ考ヘル。カナルモ1ニ對シテハ $\log f(0) = 1$ ナル條件ニ依リ *unique* = キマツク分枝ニヨツテ $\log f(t)$ ノ價ヲ一意的ニキマツ、 $f(t) = \exp\{\log f(t)\}$ ト書ケル。

然レトキ

$$(3) \exp\{\alpha \log f(t)\} \quad (\equiv f_\alpha(t) \text{ ト } \in \text{略記スル})$$

ハ、或レ正ノ実数 α = 對シテハ特性函数ヲ表ハシ、或レ正ノ実数 α = 對シテハ特性函数ヲバ表ハサナイ。前者ノ如キ α スベテノ集合ヲ假リ Ξ_f デ表ハサウ；即チ、 \mathcal{K} = 依ツテ凡ベテノ特性函数ノ集合ヲ示スナラバ

$$(4) \Xi_f = \left[\alpha; \exp\{\alpha \log f(t)\} \in \mathcal{K} \right]$$

Ξ_f = 関シテ次ノコトハ容易ニ見ラレル。

- (5) $\left\{ \begin{array}{l} \text{(i)} \quad \Xi_f \cap (0, \infty) = \emptyset \text{ ノ閉集合デアレ。} \\ \text{(ii)} \quad \Xi_f \text{ が正ノ実数全体ノ集合ト一致スレバ、} f(t) \text{ ハ無限ニ分解可能ナ確率法則デアル；逆又真。} \\ \text{(iii)} \quad \alpha, \beta \in \Xi_f \text{ ナラバ、} \alpha + \beta \in \Xi_f \text{。} \end{array} \right.$

次ニ $\mathcal{J}\{f\} =$ 依ツテ

$$(6) f_\alpha(t) e^{imt} \quad (\alpha \in \Xi_f, -\infty < m < \infty)$$

ナル如キ特性函数スベテノ集合ヲ表ハシ、 $\mathcal{J}\{f\} =$ 属スル特性函数ニ對應スル分布函数全部ノ集合ヲバ $I[F]$ デ表ハスノデアル。

以上ヲ準備トシテ、吾々ノ問題ハ、次ノ如ク formulate 出来ルノデアル：

$F(x)$ ノ分布函数トスル確率法則ヲ \mathcal{L} トスレ。 \mathcal{L} が、分解サレテ $\mathcal{L} = \mathcal{L}_1 \mathcal{L}_2$ トナルトキニハ、 $\mathcal{L}_1, \mathcal{L}_2$ ノ分布函数ヲ $F_1(x), F_2(x)$ トシテ——必ズ、 $F_1 \in I[F]$ 、且ツ $F_2 \in I[F]$ デアル様ナ F ハ如何ナルモノカ。

標記的ニ書ケバ上ノ問題ハ：

$$(9) F = F_1 * F_2 \rightarrow F_1 \in I[F], F_2 \in I[F]$$

ナル如キ F ヲ求メヨトイフコトデアマル。(勿論, F, F_1, F_2 ハ分布函数)

以上ノ如キ見方カラスレバ, 定理 10 ハコレヲ次ノ如ク書ケル:

定理 10': $F(x)$ ガ Poisson ノ分布 (即チ e^{it-1} ナル特性函数ニ對應スル分布函数) トスレバ, (9) ナル關係ガ成立スル。

カク觀察シ来ルトキ、Rajkoff ノ定理: 位地ガ次ノ關係ニアルノヲ見ル:

$K[F]$ = 於ケル分解問題	$I[F]$ = 於ケル分解問題
Gauss ノ分布 = 關スル	Poisson ノ分布 = 關スル
Cramér ノ定理 (定理 9, IV)	Rajkoff ノ定理 (定理 10)

$K[F]$ ト $I[F]$ トノ對應ヲ更ニ追求スルトキ, $I[F]$ = 關シテ幾多ノ問題ガ派生スルノヲ見ルデアロウ。シカシ, ヨウイツタ方面ニ於テ, 未ダ研究ハ進ンデ居ラナイト思フ。茲ニ將來ノ発展ガ期待シレル。

定理 10 = 對スル Khintchine ノ証明:

先ヅ証明 = 用キラレル補助定理ヲ挙ゲテ置カウ。

補助定理 A: 確率変數 U, V ハ相互ニ独立デ、

$U + V = X$ ナリトスル。 U, V, X ノ分布函数ヲ夫々,

$F(x), G(x), H(x)$ デ表ハス。然ルトキニハ, 若シ $F(x)$

ガ $-\infty < x < \infty$ = テ到ル所連続デアラハラバ, $H(x)$ =

亦然リ。

(証) 次ノ不等式カラ明ラカデアアル: 任意ノ実数 x , 任意ノ正数 $\varepsilon = \text{對シテ}$

$$\begin{aligned} H(x+\varepsilon) - H(x) &= \int_{-\infty}^{\infty} \{F(x+\varepsilon-y) - F(x-y)\} dG(y) \\ &\leq \text{l.u.b.}_{-\infty < y < \infty} |F(x+\varepsilon-y) - F(x-y)| \end{aligned}$$

補助定理 B: 確率変数 U, V ハ相互ニ独立テ,

$U+V = X$ ナリトスル。 X ノ分布函数 $H(x)$ ハ, 0 及ビ自然数ニ於テノミ飛躍ヲモツ階段函数ナリトスル。然ルトキニハ, 実数 m が存在シテ, $U+m, V+m$ ノ分布函数が共ニ 0 及ビ自然数ニ於テノミ, 飛躍ヲモク得ル階段函数トナル。

(証) U, V ノ分布函数ヲ夫々 $F(x), G(x)$ トスル。

$F(x)$ ノ連続部分 $C_F(x)$, 不連続部分 $S_F(x)$ ニ分ツ: 即チ $F(x) = S_F(x) + C_F(x)$ 。同様ニシテ, $G(x) = S_G(x) + C_G(x)$ 。然ルトキニハ

$$\begin{aligned} \int_{-\infty}^{\infty} F(x-y) dG(y) &= \int_{-\infty}^{\infty} S_F(x-y) dS_G(y) + \int_{-\infty}^{\infty} C_F(x-y) dS_G(y) \\ &\quad + \int_{-\infty}^{\infty} S_F(x-y) dC_G(y) + \int_{-\infty}^{\infty} C_F(x-y) dC_G(y) \end{aligned}$$

茲ニ, 右辺ノ第二項, 第四項ハ補助定理 A = ヨリ各 x ノ連続函数デアアル。(S, C ハ必ずシニ分布函数トナシテスカニ知レナイガ, 有界且ツ單調増加デアアルコトハ明ラカデアアル, 補助定理 A ノ証明が必要ナリトスル事ノミデアツタ), 第三

項ハ $S_F * C_G$ デアルガ、コレハ $C_G * S_F$ (即チ $\int_{-\infty}^{\infty} C_G(x-y) dS_F(y)$ ト書ク) = 等シイノデアルカラ、コレ又 x ノ連続函数デア
ル。コレヲ三項ハ又 x ノ單調増加函数デアルコトモ明ラカテ
アル。依ツテ結局

$$\left\{ \begin{array}{l} C_H(x) = \int_{-\infty}^{\infty} C_F(x-y) dS_G(y) + \int_{-\infty}^{\infty} S_F(x-y) dC_G(y) \\ \quad + \int_{-\infty}^{\infty} C_F(x-y) dC_G(y) \\ S_H(x) = \int_{-\infty}^{\infty} S_F(x-y) dS_G(y) \end{array} \right.$$

トナラネバナラヌ事ガミラレル。然ルニ假定ニヨリ、

$C_H(x) \equiv 0$ デアル。依ツテ $C_F(x) = C_G(x) \equiv 0$ トナラネ
バナラヌ。

即チ、 U, V ノ分布函数ハ共ニ階段函数デアルコトヲ
知ツタ。次ニ、 U ノ飛躍点ノ集合、 V ノ飛躍点ノ集合ハ、共
ニ下ニ有界デアル。何者、 $U+V=X$ ノ飛躍点ノ集合ガソ
ウデアアルカラ (0ガ最小値) 依ツテ、 U, V ノ飛躍点ヲ次ノ
如ク書キナラベ得ル:

$$U: a_0 < a_1 < a_2 < \dots < a_n < \dots$$

$$V: b_0 < b_1 < b_2 < \dots < b_n < \dots$$

$U+V=X$ ニ依リ、 $a_0 + b_0 = 0$ トナラネバナラヌ。依ツ
テ $a_0 = -b_0 = -m$ トオク。 $a_i = m + c_i$, $b_i = m + d_i$
トオクト、 c_i, d_i ハ自然数又ハ 0 ナケレバナラヌ。実数
 $a_i + b_0 = -m + c_i + m = c_i$ ナトル確率ハタシカニ正デ
アル。依ツテ c_i ハ 0 又ハ自然数デナケレバナラヌ。

(以上)

補助定理 C: ニツノ特性函数 $f_1(t)$, $f_2(t)$ ノ積 $f(t)$ が整函数ナルナラバ, $f_1(t)$, $f_2(t)$ モ亦整函数ナル。又特ニ $f(t)$ が $0 = +$ ナラバ 整函数ナラバ, $f_1(t)$, $f_2(t)$ モ亦然リ。
(前出, ∇ , §8, 補助定理 8 及ビ系 1)

以上ヲ準備トシテ、目的ノ定理 10 ヲ証明シマシ。

定理 10 ノ証明: $e^{e^{it}-1}$ ノ特性函数トスル確率変数 X トシ, X ガニツノ相互ニ独立トスル確率変数 U, ∇ ノ和ニ分解サレタトスル。即チ $X = U + \nabla$ 。茲ニ, U, ∇ ハ共ニ、或ル常数ニ等シクハナトスル。 U, ∇ ノ特性函数ヲ夫々 $f_1(t)$, $f_2(t)$ トスル。即チ $e^{e^{it}-1} = f_1(t) f_2(t)$

$e^{e^{it}-1}$ ハ, $0 = +$ ナラバ 整函数ナルガ故ニ、補助定理 C ニヨリ、 $f_1(t)$, $f_2(t)$ 亦ソウデナケレバナラズ。

$e^{e^{it}-1}$ ノ特性函数ニモツ X ノ分布函数ハ, 0 及ビ自然数ヲ飛躍点トスル階段函数ナル。依ツテ、補助定理 B ニヨリ適當トスル整数 m ヲトルトキ $U+m, \nabla-m$ ノ分布函数モ亦階段函数トナル。 \therefore 可能トスル飛躍点ハ 0 及ビ自然数ナル。

ソコデ $U+m, \nabla-m$ ノ代リニ、以下デハ單ニ夫々 U, ∇ トカク。即チ一般性ヲ失フコトナシニ $m=0$ ト假定スル。

$$(8) \text{Pr. } \{U=p\} = \alpha_p, \text{Pr. } \{\nabla=p\} = \beta_p$$

トオクト

$$(9) f_1(t) = \sum_{p=0}^{\infty} \alpha_p e^{ipx}, f_2(t) = \sum_{p=0}^{\infty} \beta_p e^{ipx}$$

依ッテ

$$(10) \quad \text{Pr. } \{X = p\} = \alpha_0 \beta_p + \alpha_1 \beta_{p-1} + \dots + \alpha_p \beta_0 \\ \geq \alpha_p \beta_0, \alpha_0 \beta_p.$$

茲 = $\alpha_0 \neq 0, \beta_0 \neq 0$ = 注意スル。

然ルニ, $f_1(t), f_2(t)$ ハ共ニ, $0 < t < \infty$ 又整函数ナルカヲシテ, $\beta_0 f_1(t) = \exp\{p_1(t)\}$, $\alpha_0 f_2(t) = \exp\{p_2(t)\}$ トナル整函数 $p_1(t), p_2(t)$ が存在スル。ソコヲ今 $e^{it} = z$ トオキ, 更ニ $p_i(t) = g_i(z)$ トカクトキニハ, 結局 (10) ナル関係カラ

$$g_i(z) \ll z^{-1} \quad (i=1,2) \quad g_1(z) + g_2(z) = z^{-1}$$

トナラネバナラヌ。コノ事カラシテ $g_1(z) = c_1 z + d_1$, $g_2(z) = c_2 z + d_2$, $c_1 + c_2 = 1, c_1, c_2 > 0, d_1 + d_2 = 1$ トナラネバナラヌ。ソコヲ結局, $f_1(t) = \exp\{c_1 e^{it} + h_1\}$, $f_2(t) = \exp\{c_2 e^{it} + h_2\}$ トナリ, $f_1(0) = f_2(0) = 1$ トナルコトカラ, $h_1 = -c_1, h_2 = -c_2$ トナル。即チ $f_i(t) = \exp\{c_i (e^{it} - 1)\}$, $c_1 + c_2 = 1, c_1, c_2 > 0$ トナル。向キニ $m=0$ トシタコトヲ想起スレバ, コノ証明セシコトシテ 定理 10 / 結論ニ外ナラヌ事ヲ知ル。〔以上〕